



TEMPUS

テンプス

2007年(平成19年) **28**号



もくじ

平成18年度 貝塚市文化財の新規指定

考古資料81点と廣海家文書約7万点

貝塚市の新しい登録文化財

貝塚市歴史展示館(旧ユニチカ株式会社貝塚工場事務所)

平成18年度の埋蔵文化財調査

貝塚市郷土資料展示室特別展のお知らせ

平成18年度 貝塚市文化財の新規指定

考古資料81点と廣海家文書約7万点

貝塚市教育委員会では貝塚市文化財保護条例にもとづき、平成18年11月10日付けで考古資料81点と廣海家文書約7万点を新規に指定しました。廣海家文書は平成5年から平成9年にかけて実施した古文書調査の成果によるもので、幕末から近代の廻船問屋資料で、近世・近代の貝塚地域と日本全国の経済・経営史の研究を深める上できわめて貴重な古文書です。また、考古資料は昭和60年からこれまで実施した発掘調査の成果の中から特に貝塚市域における歴史上重要な資料です。今回の指定により貝塚市指定の文化財は150件になりました。指定資料については、今後、郷土資料展示室の展示会などを企画していきます。

●有形文化財〈古文書〉

ひろみけもんじょ 廣海家文書 いっかつ 一括（76,026点） 江戸時代末期～近代 個人所蔵

廣海家は、近世から近代にかけて泉南地域最大の廻船問屋として活躍した商家です。その古文書は現在、貝塚市教育委員会に寄託・保存され、幕末から明治にかけての米穀・肥料商としての経営活動の具体的内容と変遷を知ることができます。

有名な商家である鴻池家や三井家の文書類と比較して、個別の取引内容に関する帳簿類が系統的に良く保存されており、商業活動と投資活動の双方の実態を詳しく知ることのできる貴重な商家の古文書といえます。



●有形文化財〈考古資料〉

しせきまるやま こふんしゅつ どえんとうはにわ 史跡丸山古墳出土円筒埴輪6点、あさがおがたはにわ 朝顔形埴輪5点、けいしやうはにわ 形象埴輪30点

古墳時代前期 貝塚市所蔵

史跡丸山古墳は全長約72m、後円部径約32m、前方部最大幅約27mの前方後円墳で、昭和33年に史跡に指定されています。今回指定した埴輪は平成12年度～14年度に実施した古墳周辺整備に伴う調査において発見したものです。

円筒埴輪の形成方法及び全体の形状などから丸山古墳の築造時期が古墳時代前期後半（4世紀後半）であることが確定しました。形象埴輪の中には全国的にも出土例の少ない冠帽形（かんぼうがた）埴輪と考えられるものが含まれています（テンプス26号参照）。

和泉では岸和田市摩湯山（まゆやま）古墳に次ぐ古い時期のもので、埴輪を使用した祭りの状況や古墳時代前期の和泉地域の政治勢力を考える上で重要な資料です。



円筒埴輪



冠帽形埴輪

地蔵堂古墳群 1号墳 周溝出土須恵器 12点、3号墳 周溝出土須恵器 9点

古墳時代中期 貝塚市所蔵

地蔵堂古墳群はこれまでの調査において円墳4基、方墳2基の合計6基の古墳を確認しています。古墳はいずれも約10m前後の規模のもので、幅約2～3mの周溝が巡ります。

今回はこのうち1号墳(円墳)と3号墳(方墳)から出土した須恵器を指定したもので、古墳に供えられたものです。いずれも陶邑古窯址群(すえむらこようしぐん)において製作されたもので、小規模古墳群における古墳での祭りの状況を示すとともに陶邑からの須恵器の流通状況を考える上で重要な資料です。



1号墳周溝出土 須恵器高坏、高坏蓋



3号墳周溝出土 須恵器高坏

加治・神前・畠中遺跡出土井戸枿5点(破片8枚)、井戸枿内出土木製品(ツチノコ)2点、土師器坏1点

奈良時代 貝塚市所蔵

加治・神前・畠中遺跡は弥生時代から中世にかけての遺跡で、井戸は直径4mを測る大型のもので平城京などの官衙(かんが)施設に類例が確認できますが、一般の集落では確認できないものです。井戸枿は木製で独木船転用材(まるきぶねてんようざい)を並べたものです。

井戸枿の底部からはツチノコと土師器坏が出土しています。これらは使用した痕跡が見られないことから、実用品ではなく、井戸の祭りに伴うものと考えられます。

大型井戸の発見は官衙施設の存在を推定させるもので、井戸の祭りを示す遺物と共に、古代和泉国近木郷の官衙組織を考えていく上で重要な資料です。



井戸枿内出土土師器坏



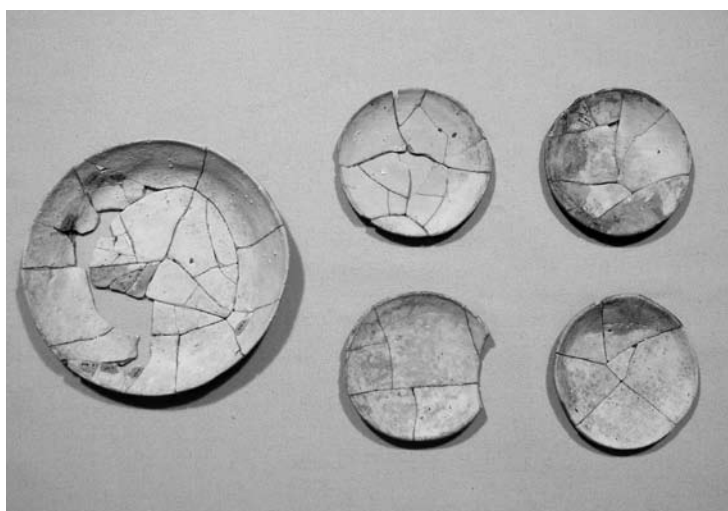
ツチノコ

は ぶ い せきちゅうせい ぼ しゅつ ど せい じ は じ き さ ら
**土生遺跡中世墓出土青磁1点、土師器皿5点、
 銭貨5点鎌倉時代 貝塚市所蔵**

土生遺跡は津田川左岸に位置し、岸和田市域にまたがる遺跡です。青磁は中国の龍泉窯系（りゅうせんようけい）のもので、土師器皿は薄手の精巧なものです。銭貨は5枚一括が錆により接着した状態で出土し、中国の輸入銭である皇宋通寶（こうそうつうほう）2枚と開元通寶（かいげんつうほう）1枚が確認できます。これらは中世の土坑墓（どこうぼ）より一括で出土しました。貝塚市では橋本遺跡出土の青磁碗と青磁皿が貝塚市指定文化財となっていますが、これらが惣墓（そうばか）における副葬品であるのと比較して、惣墓以外での地域墓制の在り方を考えるうえで重要な資料です。



青磁碗



土師器皿



銭貨

貝塚市の新しい登録文化財

貝塚市歴史展示館(旧ユニチカ株式会社貝塚工場事務所)

平成18年12月8日に開催された国の文化審議会で、本市貝塚市歴史展示館が、国の登録有形文化財の答申を受けました。これにより、本市の登録文化財は12ヶ所35棟になりました。貝塚市歴史展示館の建物は、昭和10年（1935）にユニチカ株式会社（旧大日本紡績株式会社・ニチボー株式会社）の



貝塚工場の事務所として建てられたものです。建物の西側半分を北へ曲げたL字型の平屋建ての木造建築で、昭和20年（1945）には昭和天皇の行幸を予定して、東側に玄関の車寄せと玄関ホール及び応接室を増築しています。建物は一見すると住宅風ですが、正面入口の構えや縦長窓の配列によって事務所建築としての姿が窺われます。正面入口両側の壁にはスクラッチタイルが貼られ、低平で水平感が強調された建物は昭和初期の建築の特色をよく表しています。

玄関のスクラッチタイル

昭和39年（1964）の東京オリンピックで活躍した東洋の魔女と呼ばれた選手たちや大松監督はこの事務所などで働いており、当時の関係者にとっても感慨深い建物です。

設計は当時大阪を中心に活動していた橋本勉建築事務所所長の橋本勉が行ない、施工は竹中工務店が担当しています。

橋本勉は明治39年（1906）東京帝国大学工科大学建築学科卒業後、陸軍省、逓信省を経て、大正元年（1912）に工場建築も多く手掛けていた大阪の茂建築事務所に入所、昭和元年（1926）には独立して大阪で橋本勉建築事務所を創設し、学校建築、事務所建築、工場建築などのさまざまな建築の設計を手掛けています。橋本建築事務所設計による現存建築物としては、昭和6年（1931）に建てられた富山県の旧富山紡績井波工場が知られるのみで、大阪府下では貝塚市歴史展示館が唯一の建築物です。

このように貝塚市歴史展示館の建物は、建築当初のデザインを後に改修した部分が多々あるとはいえ、建築家橋本勉の大阪に残された唯一の建築作品として、また大阪における昭和初期のモダニズム建築の一事例としても貴重なものといえます。

（貝塚市歴史展示館の愛称は、「ふるさと 知っとこ！館」です。）



応接室に残る丸窓



貝塚市歴史展示館外観

JR阪和線「東貝塚」駅徒歩5分
開館時間 午前10時～午後4時
休館日 毎週火曜日、祝日
入館料 無料

登録文化財とは

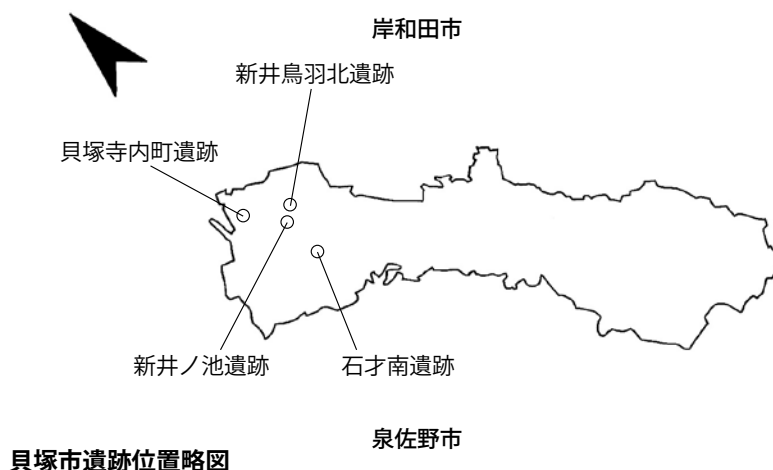
平成8年10月、文化財保護法の改訂に伴って制定されました。これまで53次の登録が実施されています。指定文化財では、修理等に対する補助金等支援措置があるものの、平常の利用、管理については細かな規制があります。民家ではこれら規制が居住者に負担となるため、負担を軽減するために制定された制度です。

登録文化財は、国、地方自治体指定物件以外を対象とし、その文化財としての価値にかんがみ、保存及び活用のための措置が特に必要とされるもので、土木構造物等を含め幅広く登録し、緩やかな保護措置を講ずることによって所有者の自主的な保護に期待する制度です。

平成18年度の埋蔵文化財調査

平成18年度の発掘調査は12月末日現在、遺跡内の確認調査を47地点、遺跡範囲外の試掘調査を11地点行ないました。このうち、石才南遺跡、土生遺跡では、弥生時代～古墳時代の遺物包含層（土器などを含む地層）および柱穴などの遺構を確認しました。新井・鳥羽遺跡、新井・鳥羽北遺跡、水間二ノ戸遺跡、加治・神前・畠中遺跡、森下代遺跡、沢西遺跡、地藏堂廃寺、新井ノ池遺跡においては中世の遺物包含層を、貝塚寺内町遺跡においては近世の遺物包含層および埋甕、カマドなどの遺構を確認しました。

試掘調査により木積下代遺跡（木積所在）を遺跡包蔵地として新規登録しました。小瀬遺跡（小瀬所在）は確認調査により遺跡範囲の拡張を行ないました。今年度、実施した発掘調査について、主な調査成果を紹介します。



石才南遺跡（石才・麻生中所在）

石才南遺跡は、近木川右岸にある弥生時代、古墳時代の遺跡です。今年度は2箇所の調査地で弥生時代から古墳時代にかけての遺構を発見しました。

調査地1では、中世の遺物包含層と古墳時代の窪み状遺構、溝状遺構を発見しました。古墳時代の遺構内より弥生後期の土器が混入していることから、弥生時代の生活面を削って新たに生活面を築いたと考えられます。溝状遺構の埋まった時期は、出土遺物により5世紀頃と推測されます。



石才南遺跡（調査地1）

調査地2では、土坑1基などを発見しました。土坑の埋土には焼土、炭・灰を含み、土坑底部が赤く焼けていることから、竪穴住居の炉部分にあたる可能性があります。

石才南遺跡では、これまでの調査において竪穴住居跡、掘立柱建物跡などが発見されており、今回の調査で発見したこれらの遺構は、弥生時代から古墳時代にかけての集落に伴うものと推測されます。

新井・鳥羽北遺跡（新井所在）

新井・鳥羽北遺跡は、近木川右岸にある中世・近世の遺跡で、これまでの調査において中世の集落跡や農地跡が発見されています。

調査では、瓦器、須恵質土器が出土する中世の遺物包含層と溝や鋤溝の遺構を発見しました。この調査地より出土した遺物や発見した遺構などから周辺の調査成果と同様に中世の農地が存在したと考えられ、発見した溝は農地に伴う水路と推測されます。



新井・鳥羽北遺跡

新井ノ池遺跡（麻生中所在）

新井ノ池遺跡は、近木川右岸にあたる弥生時代、古墳時代、中世の遺跡です。

調査では、土師器や瓦器が出土する中世の遺物包含層と溝、鋤溝などの遺構を発見しました。調査地より発見した出土遺物や遺構などから中世の農地が存在していたものと推測されます。また、出土した遺物のなかには、古墳時代の須恵器などが含まれていることから中世の農地開発が行なわれる以前に古墳時代の遺物包含層（生活面）が存在していた可能性があります。新井ノ池遺跡では、これまでの調査により、弥生時代から古墳時代にかけての遺物を多数発見しています。

貝塚寺内町遺跡（中、北町所在）

貝塚寺内町遺跡は、願泉寺を中心とする中世末期に成立した寺内町です。

今年度の調査は、願泉寺の重要文化財本堂基壇部（調査地1）と願泉寺より西側の地点（調査地2）の2箇所で行ないました。

調査地1の調査は、願泉寺半解体修理事業に伴うものであり、基壇部の上面で礎石および束石の中間に位置する柱穴を多数発見しました。これらの柱穴は本堂の建設もしくは修理に伴う工事用足場の穴と推測されます。

調査地2の調査は、近世の整地層および盛土層より埋甕、カマドなどを発見しました。3基の埋甕は半分以上埋められて並んで設置されていました。何らかの貯蔵をしていた施設と考えられます。カマドは瓦や粘土を積み重ねて造られたものなどを発見しました。



貝塚寺内町遺跡（調査地1）



貝塚寺内町遺跡（調査地2）

遺 跡 名	調査 件数	調査面積 (㎡)	遺 跡 名	調査 件数	調査面積 (㎡)
脇 浜 遺 跡	2	15.60	沢 西 遺 跡	2	187.50
貝 塚 寺 内 町 遺 跡	4	813.50	明 楽 寺 跡	1	20.00
沢 城 遺 跡	1	4.80	地 蔵 堂 遺 跡	3	21.40
久 保 遺 跡	1	10.50	地 蔵 堂 廃 寺 跡	2	16.00
津 田 遺 跡	1	6.50	麻 生 中 下 代 遺 跡	1	35.00
半 田 遺 跡	2	8.50	堤 三 宅 遺 跡	1	10.80
新 井・鳥 羽 遺 跡	1	27.00	清 児 遺 跡	2	29.44
新 井・鳥 羽 北 遺 跡	1	19.00	石 才 南 遺 跡	4	144.50
土 生 遺 跡	3	54.40	森 下 代 遺 跡	2	32.00
半 田 北 遺 跡	2	32.00	森 A 遺 跡	1	120.00
新 井 ノ 池 遺 跡	1	17.20	三 ケ 山 西 遺 跡	2	21.00
加 治・神 前・畠 中 遺 跡	4	83.90	水 間 二 ノ 戸 遺 跡	2	21.50
海 塚 遺 跡	1	2.40	遺 跡 外	11	354.60
			合 計	58	2,109.04

平成18(2006)年度 発掘調査一覧表（平成18年4月～12月末日）

◆貝塚市郷土資料展示室特別展のお知らせ◆

ぽっかんさんの平成大修理Ⅱ

ー貝塚御坊願泉寺・重要文化財本堂半解体の成果ー

今回の特別展は、現在行なわれている願泉寺本堂の半解体修理の成果展として、本堂の屋根瓦や彫刻がほどこされた建築部材、本堂の普請に関する古文書類等を展示し、寛文3年（1663）の再建から現在にいたる修理の歴史を紹介します。

会 期：平成19年2月3日(土)～3月25日(日)

場 所：貝塚市郷土資料展示室

(貝塚市民図書館2階)

観 覧：無料

休室日：毎火曜日、2月11日(日・祝)、

2月16日(金)～2月28日(水)

＜貝塚市民図書館の図書整理休館＞、

3月21日(水・祝)



ごはいたばさみ 本堂向拝手挟部分の彫物 (天人)

特別展記念講演会

第78回かいづか歴史文化セミナー「貝塚市内の近世・近代の建造物について(仮題)」

願泉寺をはじめ、貝塚寺内地域の町家、新たに国の登録文化財となった貝塚市歴史展示館など、市内の近世から近代にかけての建造物についての講演を開催します。

日 時：平成19年3月24日(土) 午後2時～4時

場 所：貝塚市民図書館2階視聴覚室

講 師：植松清志氏(大阪人間科学大学人間環境学科教授)

貝塚御坊願泉寺 平成大修復 定期見学会のお知らせ

願泉寺では、毎月第3日曜日に見学会を行なっています。見学会当日は本堂の修復のようすを自由に見学していただけますので、ご興味・ご関心のある方はぜひご参加ください。

開催日 平成19年2月18日(日)、3月18日(日)、4月15日(日)

時 間 午前10時～午後4時(時間内の見学は自由)

※見学会は、7月と11月を除いて毎月開催されています。また、見学会当日は午前10時30分と午後1時30分からの1日2回、担当者による説明が行なわれます。

表紙の写真

表紙の写真は、新指定の貝塚市文化財(2～3頁)で紹介できなかった史跡丸山古墳出土の埴輪、地蔵堂古墳群出土の須恵器です。

中央の写真は、丸山古墳の埴輪出土状況です。古墳墳丘に円筒埴輪がならべてたてられていたようすがわかります。

かいづか文化財だよりテンプス28号



平成19年1月31日発行

貝塚市教育委員会

〒597-8585 貝塚市島中1丁目17-1

Tel (072) 433-7126 Fax (072) 433-7107

Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

印刷 (株)和歌山印刷所

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年4回発行：各1,000部

印刷単価：67.20円